

教員免許状取得科目

※卒業要件単位には含まれません。

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名	
心理学概論Ⅰ (Psychology)						
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員	
必須 (公民)	2	1	前期	木 5	井 川 純 一 (Junichi IGAWA) (非常勤講師) E-mail jigawa91@oita-u.ac.jp 内線 7734	
授業の概要	心理学は「心の科学」であり、感じる、考える、思いやることなど「心の働き」を明らかにしようとする学問である。本講義は、心理学のさまざまな研究分野の中から毎回異なるトピックに焦点を当て、学問としての心理学のエッセンスを網羅していく心理学の入門講義として位置づける。講義においては、心理学論、心理学史、学習心理学、知覚心理学、認知心理学、性格心理学、社会心理学、発達心理学、進化心理学、臨床心理学、心理学研究法といった広範な領域を機能主義、行動主義の観点から分野ごとに概観する。講義毎にミニレポートを提出させ、それに対するフィードバックを行う双方向型の講義とする。また、精神保健福祉士としての実務経験を活かしてメンタルヘルスの問題や臨床心理の現状などについても説明する。					
具体的な到達目標						
目標 1	心理学のアプローチや基礎的な用語を習得する。					
目標 2	日常生活で起こる事象を心理学的な視点で観察することができるようになる。					
目標 3	専門的な内容を他者にわかりやすく伝えられるようになる。					
目標 4	得られた知識を元に建設的な議論を行えるようになる。					
目標 5						
授業の内容						
1	イントロダクション 心理学とは					
2	心理学とは何か？ (心理学論)					
3	心理学はいかに研究されてきたか？ (心理学史)					
4	経験から学ぶ (学習心理学)					
5	情報の入力 (知覚心理学)					
6	情報の蓄積 (認知心理学：記憶)					
7	出力としての思考・判断・意思決定 (認知心理学：意思決定)					
8	行動の一貫性と個人差 (性格心理学)					
9	社会的存在としてのヒト (社会心理学)					
10	ヒトの個体発生 (発達心理学)					
11	ヒトの系統発生 (進化心理学)					
12	心理学の臨床的応用 (臨床心理学)					
13	心理学はいかに研究するのか？ (心理学研究法)					
14	心理学研究において注意すべき点 (心理学と研究倫理)					
15	講義のまとめ					
アクティブ ラーニング	授業毎にミニレポートを提出させ、翌講義にてその内容についてフィードバックすることで、意見の表現交換を行う機会を与え、知識を定着させる。特に実生活に应用可能なコメントについて多くとり上げ、受講生の応用力を高める。				その他の 授業の工夫	講義の内容や参考文献を予めホームページに公開し、質問やミニレポートの総評をWeb上で回答することにより、学習を促進する。
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(18h)。				
	事後学修	資料を用いて、講義の復習を行い(20h)、講義において紹介した心理的知識を実際の生活場面で捉える(14h)。				
教科書	指定しない					
参考書	講義中に紹介する					
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)	
	ミニレポート				15	
	期末試験				85	
注意事項	1. 私語等授業の進行の妨げになる学生の受講は認めない。 2. 講義中に実験や調査への協力を求める場合がある。実験を体験することは心理学の学習を行う上で極めて有益なので積極的に参加してほしい。参加した者にはボーナス点等を与える場合がある。					
備 考	この科目は教職単位であり、卒業単位には含まれません。					
リンク						
	URL					
担当教員の実務経験の有無	○					
教 員 の 実 務 経 験	精神保健福祉士					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無						
教員以外の指導に関わる実務経験者	メンタルヘルスの維持向上について講義の中で解説する。					
実 務 経 験 を いかした教育内容						

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
社会学 (Sociology)					
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
必須 (公民)	2	3	後期	水 5	高 島 拓 哉 E-mail tataka@oita-u.ac.jp 内線 7678
授業 の 概 要	身近な具体的問題を例示しながら、社会学的なものの見方を身につける。原理論を簡単に紹介してから、各論で具体的に社会学的な視点を紹介する。				
具体的な到達目標					
目標 1	社会学的な視点・方法を身につける				
目標 2	地域の複雑な問題を解きほぐす応用力を身につける				
目標 3	経済学との関連を視野において理解できる				
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	社会学の視点 社会的行為／文化・社会意識／社会システム				
2	社会学理論の背景 共同体から市民社会へ／アノミーと社会病理				
3	労働と技術と組織 労働の社会化／生産性の向上とアウトソーシング・市場化				
4	中間集団：自治と統制 生徒会・学生自治会、部活動から考える／コミュニティとアソシエーション				
5	地域社会（１） コミュニティ論と町内会の現状、テーマ型コミュニティと町内会				
6	地域社会（２） 町内会の変革 「ミニマム町内会」・法人化／強制の組織からボランティア組織へ				
7	地域社会（３） ごみ出しをめぐる行為・意識・システム／ごみ出しルールと住民属性の齟齬				
8	地域社会と環境問題(エコロジー) 「公害から環境問題へ」／住民・国家・環境問題				
9	ジェンダーとアンペイドワーク 性別役割分業とワークライフバランス／アンペイドワーク				
10	共生社会（１） 障害児教育を中心に 不就学問題から養護学校義務制へ／インクルージョンと特別支援教育				
11	共生社会（２） バリアフリー 障害者トイレのないスウェーデン／障害者用駐車場は誰のため				
12	排除する社会：貧困・移民 ボランティアの意識／ボーダーラインの扱い／“Winner takes all” の町				
13	補完性の原理と「自助・共助・公助」 身近な単位から広域単位へ／国が自治を支える／システムの再編				
14	行政組織の再編と市民的公共性 行政の「企業化」と「市民化」／行政経営からローカル・ガバナンスへ				
15	まとめ				
アクティブ ラーニング	ごみ問題の事例では実際にプラスチック容器などを持参して学生にどの分別項目に当てはまるか考えさせる。				その他の 授業の工夫 生徒会、学生自治会の例など身近な例を取りあげて解説する。
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	日頃新聞等をよく読み、社会問題に関心を持ってもらう。			
	事後学修	講義で紹介した視点で身の回りの問題を考える習慣をつける。			
教科書	なし				
参考書	講義で紹介する。				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合 (%)
	最終レポート				100
注意事項	私語厳禁。第１回で、レポートの書き方など細かいルールを示す。				
備 考					
リ ン ク					
	URL				
担当教員の 実務経験の有無					
教 員 の 実 務 経 験					
教員以外で指導に関わる 実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる 実務経験者					
実 務 経 験 を いかした教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
職業指導					
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
必須 (商業)	2	2	後期	木 2	渡 邊 一 朗 (非常勤講師) E-mail os210015@oita-u.ac.jp 内線
授業の概要	我が国の産業構造や職業の変化、及び高等学校の進路指導の現状について理解する。また、(新)学習指導要領で示された、キャリア教育の改善・充実の指摘を踏まえ、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力を育み、キャリア発達を促すため、各教科、特別活動、総合的な探究の時間等での指導の実際について学び、生徒が主体的に進路を決定できる実践的指導力を育成する。				
具体的な到達目標					
目標 1	高等学校における進路指導の現状と課題を理解する。				
目標 2	高等学校におけるキャリア教育を理解する。				
目標 3	キャリア教育の授業づくりを理解する。				
目標 4	専門高校における資格取得やインターンシップなどの特色づくりを理解する。				
目標 5					
授業の内容					
1	高等学校における進路指導の現状と課題				
2	キャリア教育の推進 (1) (初等中等教育におけるキャリア教育の意義、必要性)				
3	キャリア教育の推進 (2) (新高等学校学習指導要領におけるキャリア教育関連事項)				
4	キャリア教育の授業づくり (1) (各教科・科目で進めるキャリア教育の実際)				
5	キャリア教育の授業づくり (2) (各教科・科目で進めるキャリア教育の実際)				
6	キャリア教育の授業づくり (3) (ホームルーム活動におけるキャリア教育の実際)				
7	キャリア教育の授業づくり (4) (職場体験・インターンシップの実際)				
8	キャリア教育の視点に立った進路指導の実際 (1) (年間指導計画)				
9	キャリア教育の視点に立った進路指導の実際 (2) (ガイダンスとカウンセリング)				
10	専門学科等における職業教育の充実(職業教育の論点と基本的な考え方)				
11	高等学校における勤労観・職業観の育成				
12	専門高校における資格取得の推進(農業科、工業科、商業科、家庭科等の取組)				
13	就職基礎能力(企業が採用に当たって重視する能力)				
14	社会人基礎力(組織や地域社会の中で必要な基礎的能力)				
15	職業的発達にかかわる諸能力の育成				
アクティブ ラーニング	・授業に小テスト等を取り入れ、知識の定着及び応用力の涵養を図る。 ・課題レポート等の発表・討議を通して主体的・対話的で深い学びとなるように授業を進める。				その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	事前配付資料等を必要に応じて予習する(8h)			
	事後学修	授業時に扱った内容に関連する資料を参考にレポート等を作成する(8h)			
教科書					
参 考 書	授業中に適宜資料を配付する。 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説「総則編」(文部科学省HPよりダウンロード) 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説「総合的な探究の時間」(同上) 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説「特別活動編」(同上)				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)
	小テスト、定期試験				60
	毎回の授業終了時に、学習内容から課題を選定し、記述させる小レポート				40
注意事項	欠席等については、必ず連絡すること。 講義の連絡は、Moodle等で行うので授業前に必ず確認しておくこと。				
備 考					
リ ン ク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無	○				
教 員 の 実 務 経 験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	○				
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実 務 経 験 を いかした教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
教職論					
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
必修	2	2	前期	金 1	清水良彦 E-mail shimizu-yoshihik@oita-u.ac.jp 内線 6148
授業の概要	教師のライフコース全体を見通し、教員養成期・初任期・ミドル期・ベテラン期の各時期に必要な知識を身につけていく。また、統計データや諸外国の事例に基づいて、日本の教師の特性や固有の課題に関する理解を深めていく。そのなかで教職に対する自らの適性を見きわめ、適切な進路選択の判断が行えるようにする。				
具体的な到達目標					
目標 1	教職の意義や教師の役割、教師像の歴史的変遷に関する基本的な用語・考え方を理解する				
目標 2	これからの時代に求められる教師像を考察することができる				
目標 3	教師の職務内容(研修・サービス・身分保障等)に関する基礎的事項を理解する				
目標 4	学校教育に関する新聞記事やニュース等の分析を通して、具体的に教師の仕事の検討を行うことができる				
目標 5	ワークライフバランスやキャリア・アンカーなどの概念を理解する				
目標 6	教職生活全体を見通して適切に進路選択の判断を行うことができる				
授業の内容					
1	教師像を探る(オリエンテーション) ・ワーク「思い出の中の教師像」				
2	教師をめざす(教員養成の歴史・免許制度) ・ワーク「教員養成課程の変遷」				
3	教職を知る(学校制度) ・ワーク「教師の労働条件」				
4	待ちに待った「教育実習」／いざ教員採用試験に臨む ・ワーク「面接試験にチャレンジ」				
5	4年間の総仕上げ「教職実践演習」 ・ワーク「学習履歴の振り返り(履修カルテ)」				
6	教師の1日・1週間／学び続ける教師(研修・専門性)・ワーク「教師の仕事を分析しよう」				
7	授業づくりに燃える教師(授業) ・ワーク「1時間の授業をつくろう」				
8	生徒と向き合う教師(生徒指導) ・ワーク「いじめについて考えよう」				
9	学級経営に打ち込む教師(学級経営) ・ワーク「学級通信をつくろう」				
10	組織の中で働く教師(学校組織)／法の中の教師(サービス) ・ワーク「教師が従うべき命令・規則とは」				
11	ミドルリーダーとしての教師(ライフコース・人事異動) ・ワーク「これからのミドルリーダー」				
12	家庭人としての教師(ワークライフバランス) ・ワーク「キャリア・アンカー」				
13	キャリアの転機・長期派遣研修／教職大学院 ・ワーク「キャリアの転機」				
14	学校経営を極める教師(管理職・地域連携) ・ワーク「SWOT分析」				
15	未来の教師(理想・専門性) ・ワーク「未来予想図 part II」				
アクティブ ラーニング					その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	・授業で取り扱う内容について自身の被教育経験を振り返る			
	事後学修	・授業で取り扱った範囲を読み直しておく。 ・授業内容に関する事後課題を課す場合がある。			
教科書	元兼正浩監修『教職論エッセンス』花書院、2015年				
参考書	中学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省) 高等学校学習指導要領及び解説(令和4年度実施 文部科学省)、生徒指導提要(平成22年3月 文部科学省)				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)
	毎回のワークシート				45
	授業への積極的な参加				15
	受講態度・発表				10
	期末レポート				30
注意事項					
備考					
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実 務 経 験 を い か し た 教 育 内 容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名	
教育心理学						
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員	
必修	2	2	前期	木 2	中 里 直 樹 E-mail nakazato-naoki@oita-u.ac.jp	

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
教育の制度と経営論					
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
必修	2	2	後期	木 4	住 岡 敏 弘 E-mail sumioka@oita-u.ac.jp 内線 7532
授業の概要	本講義では、現代の中等教育制度の意義、原理、構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付け、そこに内在する課題について理解するとともに、学校や教育行政機関が有するそれぞれの目的とその実現の方法について経営の観点から理解する。なお、この講義では、制度的・経営的観点から、学校と地域との連携の意義や地域との協働の方法について理解するとともに、学校保健安全法に基づく危機管理を含む学校安全の目的と具体的取り組みについても理解を深める。				
具体的な到達目標					
目標 1	公教育制度や学校経営の概念や原理を理解する				
目標 2	わが国の教育行政制度や学校制度、学校経営の現状を理解し、課題について考える				
目標 3	わが国の教育法制の体系を理解し、教師として教育活動に携わる際に必要な最低限の法的知識を身に付ける				
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	教育法制度（１）教育法規の体系と区分				
2	教育法制度（２）教育を受ける権利・教育の機会均等など教育法制度の根本原理				
3	学校教育制度（１）学校系統と学校体系、インテグレーションとアーティキュレーション				
4	学校教育制度（２）わが国の学校体系、設置主体の多様化、公教育の問い直し				
5	学校経営の基礎（１）マネジメントサイクル、学校評価システム				
6	学校経営の基礎（２）学校と家庭、地域との連携、学校評議員、コミュニティスクール				
7	教育内容・教育課程（１）学級という制度、学級経営				
8	教育内容・教育課程（２）アクティブラーニングなど、今後の教育課程編成の基準の方向性				
9	教師の力量形成のための制度（１）教育職員の種類と職務、教員養成制度、教員の任用・研修				
10	教師の力量形成のための制度（２）教員の服務、懲戒・分限、教員評価、教員免許制度改革				
11	教育政策と教育行政制度（１）教育政策形成の枠組み、文部科学省、教育委員会				
12	教育政策と教育行政制度（２）国と地方の教育行政機関の関係、教育振興基本計画				
13	幼児教育制度 子どもの貧困対策大綱、シュアスタート				
14	特別支援教育の制度 幼稚園、保育所、認定こども園				
15	教育財政の制度 教育財政の制度構造、家計支出教育費の増大と教育扶助制度				
アクティブ ラーニング					その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修				
	事後学修				
教科書	岡本徹・佐々木司編著『教育制度と経営』ミネルヴァ書房、2016年				
参考書	高妻紳二郎編著『新・教育制度論 教育制度を考える15の論点』ミネルヴァ書房、2014年 河野和清編著『新しい教育行政学』ミネルヴァ書房、2014年。 佐々木正治・山崎清男・北神正行編著『教育経営・制度論』福村出版、2009年。 『教育小六法〔平成28年版〕』学陽書房、2016年。 『必携教職六法＜2017年度版＞』協同出版、2016年。				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)
	定期試験				70
	中間レポート				20
	授業時のコメントペーパー				10
注意事項					
備考					
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教 員 の 実 務 経 験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実 務 経 験 を い か し た 教 育 内 容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
特別支援教育論B					
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
必修	1	3	前期	火 5	衛 藤 裕 司・古 賀 精 治 他 E-mail eto@oita-u.ac.jp, skoga@oita-u.ac.jp 内線 7537, 7521
授業の概要	通常学級に在籍する様々な障害(発達障害・軽度知的障害など)のある幼児，児童及び生徒に関し，学習上又は制生活上の困難を理解し，個別の教育的ニーズに対応するための，組織的連携や必要な知識・支援方法について学ぶ。				
具体的な到達目標					
目標 1	特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を説明できる				
目標 2	別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒に対する特別の教育課程や支援の方法を説明できる				
目標 3	特別の教育的ニーズのある幼児，児童及び生徒の把握や支援について述べることができる				
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	特別支援教育に関する制度（担当：古長治基）				
2	様々な障害の学習上又は生活上の困難（担当：古長治基）				
3	発達障害等のある幼児児童生徒の理解（担当：古賀精治）				
4	発達障害等のある幼児児童生徒への支援（担当：古賀精治）				
5	通級による指導と自立活動（担当：衛藤裕司）				
6	個別の指導計画と個別の教育支援計画（担当：衛藤裕司）				
7	発達障害等のある幼児児童生徒への支援体制（担当：衛藤裕司）				
8	その他の特別なニーズのある幼児児童生徒（担当：古賀精治，衛藤裕司，古長治基，非常勤）				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
アクティブ ラーニング	適宜小テスト等を行い，知識の定着を図る ディスカッションによる話し合いを行い，学び合う				その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する（8h）			
	事後学修	授業時に扱った内容について考え，関連する資料を読む等して復習する（8h）			
教科書	「改訂第3版 障害に応じた通級による指導の手引ー解説とQ＆Aー」文部科学省著，海文堂出版，ISBN：978-4-303-12416-8				
参考書	「小学校学習指導要領・小学校学習指導要領解説(平成29年4月告示)」文部科学省 「中学校学習指導要領・中学校学習指導要領解説(平成29年4月告示)」文部科学省				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)
	小テストまたはレポート(3回)				90
	レポート				10
注意事項	欠席等ある場合は，必ず申し出ること。				
備 考	令和元年度以降の入学生のうち，教員免許状を取得する者は，教職の必修科目となる。 この講義は火曜日5限に開催されるが，講義の開始日は，経済学部的时间割および掲示板を参照にすること。				
リ ン ク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教 員 の 実 務 経 験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実 務 経 験 を いかした教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
教育課程論					
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
必修	1	2	後期	金 1	清水 良彦 E-mail shimizu-yoshihik@oita-u.ac.jp 内線 6048
授業の概要	教育課程の基本概念と教育課程編成の原理、教育課程及び学習指導要領の変遷を理解する。カリキュラム開発及びカリキュラム評価の方法を理解し、単元計画を作成する。本科目はパワーポイントを使用した解説を中心に、テキスト資料、映像資料に基づいた考察や授業記録の検討、グループワークなどの学習活動を行う。				
具体的な到達目標					
目標 1	教育課程の基本概念と教育課程編成の原理、教育課程の歴史的変遷と学習指導要領の変遷を理解する				
目標 2	カリキュラム研究・授業研究等の知見に基づいて批評するとともに、グループワークを通して解釈・分析を深めることができる。				
目標 3					
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	オリエンテーション／ワーク「思い出の授業」				
2	教育課程とカリキュラム／映像資料「サドベリーバレースクール」の検討				
3	教育課程編成の原理：経験主義カリキュラムと系統主義カリキュラム				
4	学習指導要領の変遷とその背景／小テスト「学習指導要領の変遷」				
5	現行学習指導要領の特色／小テスト「現行学習指導要領」				
6	学力とは何か、OECDの能力構想／ワーク「基礎学力の再検討」				
7	教科書、副教材と著作権／ワーク「教科書分析」				
8	カリキュラムの開発・実施・評価の方法／課題「単元計画づくり」				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
アクティブ ラーニング					その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修				
	事後学修				
教科書	教科書は指定しない。適宜資料を配付する。				
参考書	文部科学省『中学校学習指導要領 総則編』（平成29年3月公示） 文部科学省『高等学校学習指導要領 総則編』（令和4年度実施） 元兼正浩監修『改訂版 教育法規エッセンス』花書院，2015年。その他は授業中に紹介する。				
評 方 成 価 法 績 制 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)
	毎回のワークシート				45
	授業への積極的な参加				15
	受講態度・発表				10
	定期試験				30
注意事項					
備考					
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教 員 の 実 務 経 験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実 務 経 験 を い っ ぱ い した 教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
総合的な学習の時間の理論と方法					
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
必修	1	2	前期	月 3	牧 野 治 敏 E-mail hmakino@oita-u.ac.jp 内線 7644
授業の概要	学習指導要領、学習指導要領解説編に沿って、年間指導計画に基づいた各学校の実践事例をカリキュラム・マネジメントをふまえながら講義する。 講義による理解を基礎として、自ら指導することを想定した単元計画と授業案をグループで設計する。また、他者の制作物をピアレビューし建設的修正意見により完成度を高める。				
具体的な到達目標					
目標 1	総合的な学習の時間が設置された意義を、中学校・高等学校で育成すべき資質能力の観点から説明できる。				
目標 2	地域の事象を教材として、教科横断的な観点を持ちながら、深い理解をえられる単元計画と授業を設計できる。				
目標 3					
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	総合的な学習の時間の学習指導要領上での位置づけについて（講義）				
2	カリキュラム・マネジメントの観点からみた中学校・高等学校での実践事例（講義）				
3	教科の学習内容を踏まえた総合的な学習の時間の年間指導計画について（講義）				
4	総合的な学習の時間における評価の考え方と具体的な手法について（講義）				
5	授業実践を想定した調査と教材開発（調べ学習と単元計画・授業案作成の準備）				
6	単元計画と授業案のグループ毎での作成（グループワーク）				
7	作成した単元計画と授業案のピアレビューとジグソー法学習の実践（グループワーク）				
8	授業の振り返り				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
アクティブ ラーニング					その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	学習指導要領解説または高等学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」を読む（4h）			
	事後学修	授業計画の構想・指導案の作成（8h）			
教科書	中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編(平成29年3月) 文部科学省				
参考書	中学校学習指導要領(平成29年3月) 文部科学省 高等学校学習指導要領、高等学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編(令和4年度実施) 文部科学省				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)
	定期試験				50
	毎回の授業の最後に提出する小レポートとグループワークによる制作物				50
注意事項					
備 考					
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教 員 の 実 務 経 験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実 務 経 験 を いかした教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
特別活動の方法と理論					
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
必修	2	2	後期	集中	長 須 正 明（非常勤講師） E-mail 内線
授業の概要	中等教育の教育課程における特別活動の位置づけを理解する。そのうえで、中等教育の教育課程における特別活動の位置づけを理解する。さらに、指導計画・内容の取扱いを理解しながら指導案づくりに取り組む。特別活動を実践できる知識や技能の修得を目指す。実際の学級活動／ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事について、映像教材等を用いてケース・スタディとして、具体的に「特別活動」を理解できるように配慮する。				
具体的な到達目標					
目標 1	学校教育全体における特別活動の意義を理解する				
目標 2	特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける				
目標 3	現在の学校における特別活動の諸問題について教員としての視点から自分の考えをもち、説明できるようになる				
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	特別活動とはなにか？				
2	特別活動の目的と今日的意義・・学習指導要領から考える				
3	特別活動の本質と内容				
4	学級集団の形成と組織類型論から見た学級				
5	学級指導と目的としてのリーダーシップ				
6	特別活動の指導方法（１）方法としての集団活動と集団の規範				
7	特別活動の指導方法（２）集団活動の進め方				
8	特別活動の実際（１）学級活動(HR活動)				
9	特別活動の実際（２）児童会・生徒会活動(クラブ活動)				
10	特別活動の実際（３）学校行事				
11	特別活動の指導案をつくる（１）学級活動・・キャリア教育を中心にして				
12	別活動の指導案をつくる（２）生徒会活動／学校行事を中心にして				
13	特別活動を通して何が得られるのか～あらためて「教育」を問う				
14	特別活動と道徳・総合的な学習の時間の関係				
15	授業のまとめとレポートの作成について				
アクティブ ラーニング					その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修				
	事後学修				
教科書	とくに使用しない				
参考書	藤田晃之編 2017『中学校新学習指導要領の展開 平成29年版特別活動編』、明治図書出版 その他、プリント等を適宜配布する				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)
	授業時のコメント・ペーパー				30
	学期末のレポート				70
注意事項					
備 考					
リ ン ク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教 員 の 実 務 経 験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実 務 経 験 を いかした教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
教育方法の理論と実践					
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
必修	2	3	前期	金 3	清水 良彦 E-mail shimizu-yoshihik@oita-u.ac.jp 内線 6148
授業の概要	この授業は、①教育方法の理論と実際について、基本的な学習論の用語・概念を理解した上で、②授業実践に対する見方や考え方(実践的見識)を身につけることを目的とする。また、情報機器を活用した教材開発や授業実践についても取り扱う。				
具体的な到達目標					
目標 1	教育方法に関する基本的な用語・概念を理解する。				
目標 2	授業実践や学びについて授業デザインや教材の開発、教師教育などの幅広い視点から考察することができる。				
目標 3	具体的な授業実践について、カリキュラム研究や教育方法学研究、授業研究等の知見に基づいて批評できる。				
目標 4	具体的な授業実践について、グループワークを通して解釈・分析を深めることができる。				
目標 5					
授業の内容					
1	オリエンテーション				
2	授業と学びの世界：「学び」とは何か				
3	授業の今日的な課題：「学び」の質の変化				
4	授業デザインの考え方と方法				
5	教科書・副教材／「模擬授業づくり①」（グループ）				
6	授業における情報機器の活用／「模擬授業づくり②」（グループ）				
7	学習指導案検討会				
8	模擬授業をやってみよう① 各教科・各グループの模擬授業				
9	模擬授業をやってみよう② 各教科・各グループの模擬授業				
10	模擬授業をやってみよう③ 各教科・各グループの模擬授業				
11	授業研究の方法（１）授業の観察・記録				
12	授業研究の方法（２）授業分析の原理と方法				
13	授業研究の方法（３）授業記録の検討				
14	教師の成長と教育方法				
15	講義のまとめ				
アクティブラーニング	グループでの演習やディスカッション、ワークショップ、プレゼンテーション				その他の授業の工夫
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	・グループワークに向けて各自で授業のアイデアを練っておく。			
	事後学修	・授業時間内に終わらなかったワークなどに取り組む。			
教科書	指定しない。				
参考書	授業中に提示します。				
評価方法 成績割及評価の割合	評価方法				割合(%)
	毎回のワークシート				40
	模擬授業				10
	受講態度				10
	発表				10
	中間レポート				15
	期末レポート				15
注意事項					
備考					
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
公民科指導法 A					
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
必須 (公民)	2	3	前期	木 3	平 田 利 文 (非常勤講師) E-mail hirata@oita-u.ac.jp 内線
授業 の 概 要	公民教育の現状と課題，公民科教育の実践的動向を理解し，学習指導要領公民科の目標と内容について理解し，具体的な単元計画及，学習指導案及び模擬授業案を作成・実施する。				
具体的な到達目標					
目標 1	公民教育の現状と課題，及び公民科教育の実践的動向について理解することができる。				
目標 2	学習指導要領における公民科の目標や内容について理解することができる。				
目標 3	学習指導要領公民科の目標と内容に基づき，具体的な単元計画，学習指導案及び模擬授業案を作成し，模擬授業を実施することができる。				
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	イントロダクション				
2	公民教育の現状と課題				
3	公民科教育の実践研究の動向				
4	学習指導要領公民科の目標と内容の理解：「公共」				
5	学習指導要領公民科の目標と内容の理解：「倫理」				
6	学習指導要領公民科の目標と内容の理解：「政治・経済」				
7	公民科の評価方法				
8	学習指導要領公民科の全体構成についてのまとめ				
9	単元計画の作成：「公共」（情報機器及び教材の活用を含む。）				
10	単元計画の作成：「倫理」（情報機器及び教材の活用を含む。）				
11	単元計画の作成：「政治・経済」（情報機器及び教材の活用を含む。）				
12	学習指導案及び模擬授業の作成・実施「公共」（情報機器及び教材の活用を含む。）				
13	学習指導案及び模擬授業の作成・実施「倫理」（情報機器及び教材の活用を含む。）				
14	学習指導案及び模擬授業の作成・実施「政治・経済」（情報機器及び教材の活用を含む。）				
15	学習指導案に基づく模擬授業の作成・実施に関する振り返り				
アクティブラーニング	公民科の目標と内容の理解及び学習指導案と模擬授業の作成においては，全員で討議(アクティブラーニング)する時間を設定しながら進める。				その他の授業の工夫 ICT機器を有効に利用する。
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	事前に関連資料・データを収集しておく。			
	事後学修	講義で明らかになった必要な資料・データを追加的に収集する。			
教科書	高等学校学習指導要領(2022年度実施 文部科学省) 高等学校学習指導要領解説 公民編(2022年度実施 文部科学省)				
参考書	高校公民科の教科書 授業中に適宜資料を配付する。				
評価方法・成績割及び評価の	評価方法				割合(%)
	単元計画・学習指導案・模擬授業案の提出				80
	模擬授業の実施				20
注意事項					
備考					
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
公民科指導法 B					
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
必須 (公民)	2	3	後期	木 3	平 田 利 文 (非常勤講師) E-mail hirata@oita-u.ac.jp 内線
授業 の 概 要	高校公民科の模擬授業を分析することができ、単元計画及び学習指導案を作成し、模擬授業を実施することができる。				
具体的な到達目標					
目標 1	公民科の模擬授業の事例を分析することができる。				
目標 2	公民科の模擬授業のための学習指導案を作成することができる。				
目標 3	公民科の模擬授業を計画し、実施することができる。				
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	イントロダクション				
2	公民科の模擬授業の分析：公共(情報機器及び教材の活用を含む。)(ビデオ利用)				
3	公民科の模擬授業の分析：倫理(情報機器及び教材の活用を含む。)(ビデオ利用)				
4	公民科の模擬授業の分析：政治経済(情報機器及び教材の活用を含む。)(ビデオ利用)				
5	公民科授業の学習指導案作成：公共				
6	公民科授業の学習指導案作成：倫理				
7	公民科授業の学習指導案作成：政治経済				
8	模擬授業の実施(1)：公共(学習指導要領内容項目 A)(情報機器及び教材の活用を含む。)(ビデオ利用)				
9	模擬授業の実施(2)：公共(学習指導要領内容項目 B・C)(情報機器及び教材の活用を含む。)(ビデオ利用)				
10	模擬授業の実施(3)：倫理(学習指導要領内容項目 A)(情報機器及び教材の活用を含む。)(ビデオ利用)				
11	模擬授業の実施(4)：倫理(学習指導要領内容項目 B)(情報機器及び教材の活用を含む。)(ビデオ利用)				
12	模擬授業の実施(5)：政治経済(学習指導要領内容項目 A)(情報機器及び教材の活用を含む。)(ビデオ利用)				
13	模擬授業の実施(6)：政治経済(学習指導要領内容項目 B)(情報機器及び教材の活用を含む。)(ビデオ利用)				
14	評価方法についてのまとめと振り返り				
15	学習指導案及び模擬授業に関するまとめと振り返り				
アクティブ ラーニング	毎回、模擬授業の分析では、全員で討議(アクティブラーニング)を行い、模擬授業においては、全員で質疑討議の時間を設定し(アクティブラーニング)、従業分析を行う。				その他の 授業の工夫 ICT機器を有効に利用する。
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	事前に関連資料・データを収集しておく。			
	事後学修	講義で明らかになった必要な資料・データを追加的に収集する。			
教科書	高等学校学習指導要領(令和4年度実施 文部科学省) 高等学校学習指導要領解説 公民編(令和4年度実施 文部科学省)				
参考書	授業中に適宜資料を配付する。				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)
	単元計画・学習指導案の作成及び模擬授業の実施				50
	模擬授業の実施内容				50
注意事項					
備 考					
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教 員 の 実 務 経 験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実 務 経 験 を いかした教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
商業教育論Ⅰ					
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
必須 (商業)	2	3	前期	木 1	渡 邊 一 朗 (非常勤講師) E-mail os210015@oita-u.ac.jp 内線
授業の概要	高等学校における教科等の指導力を育成するため、必要な教育関連法規の概要を知るとともに、(新)高等学校学習指導要領総則編及び商業編に示された具体的諸事項についての専門的な知識・技能(技術)と実践的指導力を習得する。				
具体的な到達目標					
目標 1	学校教育に関する関係法規や(新)高等学校学習指導要領総則編を理解する。また、商業編に示された各科目等の内容の概要を理解し、実践的指導力を習得する。				
目標 2	商業教育の意義と必要性について、我が国の商業教育発展の歴史を踏まえ理解する。				
目標 3	学習指導の基本を理解する。				
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	商業科教育論Ⅰ・Ⅱのガイダンス及び学び方				
2	学校教育に関する法規 (1) (日本国憲法・教育基本法)				
3	学校教育に関する法規 (2) (学校教育法、学校教育法施行規則)				
4	学校教育に関する法規 (3) (地方教育行政の組織及び運営に関する法律)				
5	商業教育の意義と必要性				
6	我が国における商業教育の歩み				
7	(新)高等学校学習指導要領 総則編の概要 (1) (総説、教育課程の基準、教育課程の編成及び実施)				
8	(新)高等学校学習指導要領 総則編の概要 (2) (各教科・科目及び単位数等、各教科・科目の履修等)				
9	(新)高等学校学習指導要領 総則編の解説 (3) (編成配慮事項、単位の修得・卒業の認定、手順と評価)				
10	(新)高等学校学習指導要領 総則編の解説 (4) (特別な配慮が必要な生徒への対応)				
11	(新)高等学校学習指導要領 商業編の解説 (1) (教育課程の編成と実施)				
12	(新)高等学校学習指導要領 商業編の解説 (2) (指導計画の作成)				
13	(新)高等学校学習指導要領 商業編の解説 (3) (学習評価の実際)				
14	商業科の学習指導法 (1) (グループワーク実施の基本)				
15	商業科の学習指導法 (2) (学習指導案作成の基本)				
アクティブ ラーニング	・授業中にMoodleによる小テストの実施やグループワーク等を取り入れ、知識の定着及び応用力の涵養を図る。 ・課題レポート等の発表・討議を通して主体的・対話的で深い学びとなるように授業を進める。				その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	事前配付資料等を必要に応じて予習する(8h)			
	事後学修	授業時に扱った内容に関連する資料を参考にレポート等を作成する(8h)			
教科書	高等学校学習指導要領(平成30年告示)(文部科学省HPよりダウンロード) 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説「総則編」(文部科学省HPよりダウンロード) 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説「商業編」(文部科学省HPよりダウンロード)				
参考書	授業中に適宜資料を配付する				
評 方 成 価 法 績 制 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)
	定期試験				80
	毎回の授業終了時に、学習した中から課題を選定して記述させる小レポート				20
注意事項	授業中に小テスト等を実施するので、欠席等については、必ず連絡すること。 講義の連絡は、Moodle等で行うので授業前に必ず確認しておくこと。				
備考					
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無	○				
教員の実務経験	高等学校教員「商業科」「情報科」				
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	○				
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実 務 経 験 を いかした教育内容	(新)学習指導要領に実施に向けた各学校での取組事例の紹介				

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
商業教育論Ⅱ					
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
必須 (商業)	2	3	後期	木 1	渡 邊 一 朗 (非常勤講師) E-mail os210015@oita-u.ac.jp 内線
授業 の 概 要	商業科の各科目の学習内容や実践的な指導法を習得する。また、魅力ある授業の構造を理解するとともに、各自が各科目の指導、評価計画、授業展開他を記した学習指導案等の要点を掴む。さらに、作成した学習指導案により実際に模擬授業を行い、授業評価会を通じて授業力の向上を図る。				
具体的な到達目標					
目標 1	魅力ある授業を展開できるよう、各科目の学習内容を理解し、指導及び学習評価方法を習得する。さらに指導と評価の一体化についても学び、授業構想力を身につける。				
目標 2	授業力向上のため、授業の計画案である学習指導案等を作成し、模擬授業の実施、評価・改善というPDCAサイクルの過程を通して、学習の質を高める指導技術を習得する。				
目標 3					
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	商業の教科目標と各科目の概要 (1) (改訂の趣旨、教科の目標、全20科目の概要)				
2	商業の原則履修科目の目標と内容 (2) (ビジネス基礎の目標、内容、教材研究)				
3	商業の基礎科目の目標と内容 (3) (簿記の目標、内容、教材研究)				
4	商業の基礎科目の目標と内容 (4) (情報処理の目標、内容、教材研究)				
5	商業の原則履修科目の目標と内容 (5) (課題研究の目標、内容、教材研究)				
6	魅力ある授業作りの実際 (1) (学習指導案の作成))				
7	魅力ある授業作りの実際 (2) (「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の実際)				
8	模擬授業の実施 (1) (年間指導計画)、(教育機器・情報機器の活用)				
9	模擬授業の実施 (2) (教材観、指導観、生徒観)、(教育機器・情報機器の活用)				
10	模擬授業の実施 (3) (単元設定、本時の目標)、(教育機器・情報機器の活用)				
11	模擬授業の実施 (4) (学習活動)、(教育機器・情報機器の活用)				
12	模擬授業の実施 (5) (指導内容)、(教育機器・情報機器の活用)				
13	模擬授業の実施 (6) (診断的評価と形成的評価)、(教育機器・情報機器の活用)				
14	模擬授業の実施 (7) (学習指導案作成の全体構想)、(教育機器・情報機器の活用)				
15	今日的学校の諸問題とその対応(特色づくり、学力向上、人権教育、いじめ、資質向上等)				
アクティブ ラーニング	・ 単独による模擬授業、またはTTによる模擬授業の計画及び実施を実践的に学ぶ。 ・ 次回の模擬授業の改善に活かすため、ペアまたはグループワークに取り組み、「個に応じた指導」について個々の考えを深める。			その他の 授業の工夫	
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	学習指導案、板書案の作成・提出(10h)			
	事後学修	模擬授業の実践を通して、教材・教具の扱い、流れ、発問、板書等の改善点を考える。(4h)			
教科書	高等学校学習指導要領(平成30年告示)(文部科学省HPよりダウンロード) 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説「総則編」(文部科学省HPよりダウンロード) 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説「商業編」(文部科学省HPよりダウンロード)				
参考書	授業中に適宜資料を配付する				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合(%)	
	レポート内容 学習指導案の作成及び模擬授業の実施内容			30 70	
注意事項	各自が模擬授業を複数回実施する。欠席等があると実施スケジュールに変更が生じるので、必ず事前に連絡すること。				
備考					
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無	○				
教 員 の 実 務 経 験	高等学校教員「商業科」「情報科」				
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	○				
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実 務 経 験 を い か し た 教 育 内 容	各学校での授業実践の取組事例の紹介				

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
生徒指導の理論と方法(進路指導を含む。)					
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
必修	2	2	前期	水 1	長谷川 祐 介 E-mail yhasegawa@oita-u.ac.jp

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
教育相談の理論と実際					
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
必修	2	3	前期	集中	高 橋 淳一郎（非常勤講師） E-mail 内線
授業の概要	中学校現場で遭遇する種々の問題に対処するために、カウンセリングの基礎的知識を含む基本的・実践的な考え方や態度・技法を身につける。具体的な事例について教育臨床的な視点から問題を理解し、対応のあり方について具体的に論じる。				
具体的な到達目標					
目標1	中学校の現場で起こる様々な教育相談に関わる諸問題について、背景としての社会的課題を踏まえながら理解を深める。				
目標2	中学生に発生しやすい心理的な問題について理解する。				
目標3	学校で起こる教育相談上の諸問題について、教師として学校での生徒や保護者への対応等、事例を挙げながら実践的に学ぶ。				
目標4	教職員・スクールカウンセラーとの連携のあり方、外部専門機関との連携など、実際の事例を挙げながら実践的に学ぶ。				
目標5					
授業の内容					
1	オリエンテーション・現代社会における教育相談の意義				
2	子どもの発達の特徴と思春期の理解				
3	中学生に起こりやすい発達上の諸問題①				
4	中学生に起こりやすい発達上の諸問題②				
5	不登校の子どもの理解とかかわり				
6	いじめへの対応				
7	発達障害の理解とかかわり①				
8	発達障害の理解とかかわり②				
9	暴力行為の理解とかかわり				
10	カウンセリングの基本的理論				
11	カウンセリングの基本的技法				
12	スクールカウンセラーおよび外部機関との連携について				
13	アセスメントの方法				
14	カウンセリングにおける予防・開発的援助				
15	保護者および家庭への支援と連携のあり方				
アクティブ ラーニング					その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修				
	事後学修				
教科書	「現代の子どもをめぐる発達心理学と臨床」次良丸 睦子他(福村出版)				
参考書	講義内で適宜紹介する				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)
	最終試験				80
	毎回の授業後のリアクションペーパー				20
注意事項					
備 考					
リ ン ク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教 員 の 実 務 経 験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実 務 経 験 を いかした教育内容					